

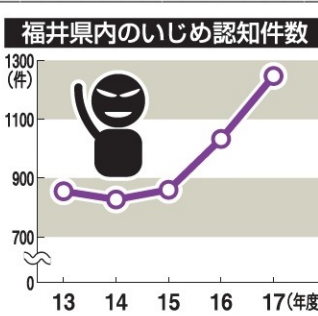
県内も増1247件 解消率低下

文部科学省が25日に公表した2017年度の問題行動・不登校調査結果によると、福井県内のいじめ認知件数は1247件で前年度から214件増えた。いじめの解消率は83・1%で3・4%減。全国平均より2・7%低かった。

認知件数の内訳は小学校791件(185件増)、中学校334件(32件増)、高校120件(4件増)、特別支援学校2件(7件減)だった。児童生徒千人当たりの認知件数は14・0件で、2・5%増えた。

従来は人間関係のトラブルやささいなけんかとしていたケースも前回調査からいじめと捉えており、認知件数増の要因を県教委は「早期にいじめを発見するという共通理解が浸透した」と分析。「安易に解消したと見なさず、被害

者の立場に寄り添って支援し見守っていく」としている。一方、県内小中高校での暴



力行為は95件で40件増えた。内訳は小学校24件、中学校10件、高校61件で、内容は生徒間68件、器物損壊17件、対教師8件、生徒間・対教師以外の対人2件。児童生徒千人当たりでは1・1件で全国平均の4・8件を下回った。

小学校と高校が増えており、県教委は「ささいなけんかも計上するようになった」としている。(小林真也)